

!!! 今月の SpotLIGHT

嘉手納基地で働く様々な職種の日本人従業員にスポットをあてて毎月紹介していくコーナーです。今月はこの方です。



第18航空団任務支援群 部隊支援中隊

かりまた ちえみ
狩俣 智恵美さん

Q1. あなたの職種と仕事の内容をお聞かせ下さい。

第18航空団任務支援群の部隊支援中隊司令部で司令官付補佐官（エグゼキユティブ・アシスタント）として働いています。中隊では、基地内のクラブ、ゴルフ場、ボウリング場、ランドリーなどが傘下にあり、約2300名が働いています。福利厚生を主に行っている中隊だと考えてもらえばわかりやすいですね。私の補佐官としての仕事は多岐にわたり、さまざまなイベントの調整、通訳などが含まれます。中隊の司令官交代式の準備をしたときは、式典の司会選び、場所の確保など、細かいが仕事がたくさんありました。



(米空軍上等兵撮影)

SHIEMI
KARIMATA



(米空軍：アマンダ クラビック上等兵撮影)

Q3. 留学で学んだことは？

カナダでの約1年間、大学付属の英語学校や、教会で提供されているフリースクールなどで英語を学ぶ機会がありました。なかでも特に、フリースクールでの経験が印象に残っています。教会で提供されているフリースクールというのは無料で英語を教えている教室なのですが、対象となる生徒は主に難民や移民の方が多く、私の周りには戦争で家族や祖国を失った人がおり、みなさん新しい土地で必死に生きようがんばっていました。そのような状況にある人たちと接していく過程で、「世界の中の自分」というのを初めて意識するようになりました。考え方と物の見方を向上させるいい機会になったと思っています。

Q4. アメリカ人と仕事をする中で、日本人との違いを感じる事はありますか？

基地で働くようになって学んだことは、アメリカ人ガボランティアにとても積極的だということです。仕事外の活動になるのですが、沖縄市内にある児童福祉施設の子供たちを支援するプログラムに関わっています。嘉手納基地内の部隊から寄付やボランティアを募り、5月の子供の日にボウリング大会を開催したり、クリスマスにはケーキやプレゼントを持って児童園を訪問したりしています。大変な労力を要しますが、子供たちの笑顔を見るとやってよかったなと思うんです。



Q5. 仕事をする上での今後の課題などはありますか？

私の就いている司令官付補佐官という役職は、他の中隊だと中尉(Lt. ルテナント)や大尉(Capt. キャプテン)といった軍人が務めることが多く、嘉手納基地でこの役職に就いている日本人は私だけなんです。最近はありませんけれども、最初の頃は若い兵士達が言うことを聞いてくれない時もありました。私は軍人でもないし将校の階級もないのに、自分なりに努力して他の方からの協力を得ながら仕事をこなしていくことを覚えて行つたのですが、最終的にはお互いを助け合うことが仕事をスムーズに進める最善の方法だなと思います。今現在の課題を挙げるなら、ユニット(部隊)としての団結を図つていきたいです。昨年の5月の部隊編成で私たちの中隊にも人事や仕事の面で本当に様々な変化がありました。2つのユニットが統合したのですが、ひとつのチームとしてまとまって行くことができたらなと思っています。

Q6. 同じ職種を目指す人たちに何かアドバイスをお願いします。

英語の会話、読み、書きの能力はかなり要求されると思います。私には引継ぎやトレーニングをしてくれる方がいなかつたので、慣れるのに2-3年はかかったと思います。でも、誰でも頑張ればできる仕事だし、いろいろな仕事を通して勉強になつたり、たくさんの方にお会いすることができます。

「ツアーズ・フォア・ツツ」同行取材記

第18航空団広報局

(写真全て、第18航空団広報局：宮城パトリシア撮影)

TOURS FOR TOPS



嘉手納基地には、Information Ticket and Travels（インフォメーションチケット&トラベル）略してITTと呼ばれる旅行代理店のような役割を果たしている事務所があります。そこでは、基地内の軍人・軍属・その家族を対象にした県内外のパックツアーの企画、販売、コンサートや県内行楽地のチケット販売、県内ホテル予約、地元イベントの紹介などを行います。

県外ツアーでは富士登山や東京、京都、広島観光等の日本国内ツアーもあれば香港、オーストラリア、シンガポールといった海外ツアーも扱っています。すべてのツアーは、民間の旅行代理店が企画するツアー同様で、航空券、ホテル、食事込みのパックツアーで、添乗員も同行します。

県内ツアーも豊富で、座間味島、津堅島、水納島等への離島ツアー、首里城、南部戦跡、闘牛大会等への歴史文化ツアー、那覇市公設市場、100円ショップ、生地手芸店など主婦をターゲットにした買い物ツアー、6月から8月の夏休み期間中は家族連れを対象にしたビーチやプールへのリゾートツアーを提供しています。また、ユニークな企画としては、「ツアーズ・フォア・ツツ」（児童のためのツアー）と称される就学前児童を対象にしたツアーがあり、児童でも楽しめる蝶々園や牧場、児童用遊具の備わった施設へ案内します。今回は、その児童向けツアーの様子をリポートします。

8月14日午前11時、21名のツアー参加者と共に嘉手納基地をITT所有のバスで出発！目的地は農業体験のできる沖縄本島北部、大宜味村のきゅな牧場。今回は、夏休みでもあり就学前の児童のみならず小学生の参加もありました。ツアーガイドはこの道18年のベテランガイドの稻福節子さん。移動中、稻福さんは豊富な知識を生かし沖縄に関する様々な情報をエネルギッシュに説明していました。例えば、沖縄市の運動公園前では



沖縄全島エイサー祭り開催やエイサーの歴史について、名護市の羽地湾近辺では今帰仁村古宇利島に子宝に恵まれると言われるビジュルと拝所について等々。

いざ、「きゅな牧場」へ！



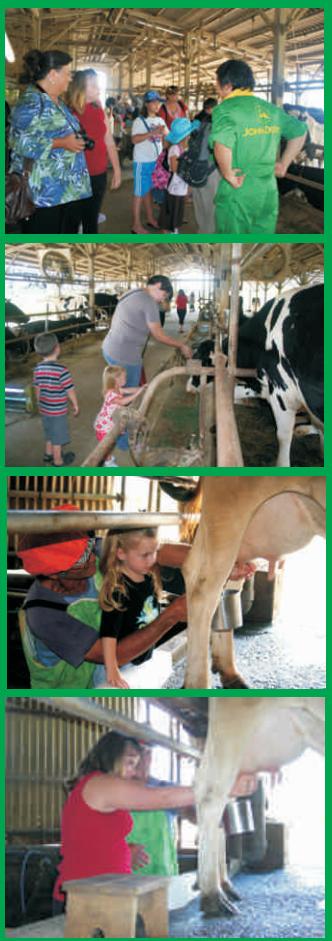
出発してから約1時間ほどで大宜味村の山奥にある「きゅな牧場」に到着。オーナー夫人の喜友名慶子さんが「ウエルカム」と笑顔で迎えてくれました。参加者全員が消毒液の入った箱に靴ごと入り、靴底を殺菌したうえで、子牛小屋へ向かいました。歯がまだ生えていない子牛はこども達が触れても安全とのことで、参加したこども達は大喜びで子牛に触っていました。1歳でまだよちよち歩きの子が怖がることなく牛と接する姿がとても微笑ましく、そこで、思わずシャッターをきりました。

次ページへ続<

その後牛舎へ移動し、また手洗い消毒を終え、牧場オーナーの喜友名朝秀さんに搾乳のコツを教えてもらいながら参加者全員が搾乳を体験しました。途中乳牛がファンをするハプニングもありましたが、それも体験のうちと苦笑いする参加者たち。すかさず、「このような体験から皆さんも普段何気なく飲んでいる牛乳も大切な命から分けてもらっていることを意識するでしょう」と言うベテランガイドの稻福さんの言葉に、参加者もうなずいていました。

搾乳を終え、今度はバター作りに挑戦するため、別の建物へ移動。冷えた生乳の入ったプラスチック容器を受け取り、それを振るように言われ、みんな一誠にスタート。音楽に合わせ「シェイク、シェイク、シェイク」と掛け声をかけながら参加者がダンスをする一幕もありました。1,2分振り続けると、中の生乳が脂肪分と水分（バターミルク）に分離しました。容器を開けバターミルクを味見。低脂肪乳に近いさっぱりとした味わいです。「残りがバターですよ」と言われびっくり。こんなにも簡単にバターが作れるとは感心しきりでした。出来立てバターに塩を一つまみ加えて完成。喜友名夫人手作りの焼きたてパンにバターを塗って試食しましたが、手作りバターの風味が口全体に広がり格別でした。「小さい頃、あばあちゃんの家で食べたパンと同じ味がする」と懐かしむ参加者もいました。絞りたて牛乳に焼きたてパンと手作りバターを味わい、ゆったりとした牧場での時間を皆満喫したようです。

帰る間際に、牧場からこども達へ風船のプレゼントがあり、こども達は大感激。参加者は「ARIGATO」と喜友名ご夫妻にお礼を述べ午後2時頃牧場を後にしました。途中、行程にはなかつた名護市のマクドナルドへ立ち寄り、腹ごしらえをし、3時30頃に嘉手納へ到着し、「ツアーズ・フォア・トツ」の小旅行が終わりました。



おばあちゃんと一緒にツアーに参加していたヘイリー・コッテンさん（11歳）に牧場体験の感想を聞くと「牛を見ることも、直接触れることも今日が初めてでした。はじめ噛まれるかもしれないと思って怖かったけど、牛たちはとてもフレンドリーだったわ。今日は本当に最高だった！」と興奮気味に話してくれました。

喜友名夫妻とのふれあい、牧場での体験、米国人にとっても幼児向けツアーとはいえ大人でも十分に楽しめる充実したツアーだったとの参加者から感想が寄せられました。

USAF

1947年、米国空軍創設

第18航空団広報局

概要

米国空軍は米国陸軍から分離独立する形で、1947年9月18日に創設されました。太平洋戦争終結後二年目のことでした。1947年以前、海軍以外の航空戦力は陸軍が受け持っていました。陸軍の飛行部隊は第一次大戦と第二次大戦に関与し、数回の改編を経て空軍へと生まれ変わりました。



写真：嘉手納基地所蔵



写真：米空軍



初期の経緯

ライト兄弟が、世界初の飛行機を開発したのが1903年。米軍が初の軍事用飛行の実験をしたのが1906年のことでした。1907年8月1日、米国陸軍通信隊(U.S. Army Signal Corps)の中に、全ての軍事用気球(military balloon)に関する運用を担当する小規模の航空機部門(Aeronautical Division)が創設されました。その部門では、操縦可能な気球が開発・運用されてましたが、1909年5月26日には飛行船(airship)を開発するに至り、初の陸軍飛行船パイロットが誕生しました。1909年8月2日には、第1号機と認められる飛行機(airplane)が製造されました。1912年度予算が米国議会で計上され、同通信隊は航空機(aircraft)11機を調達しました。1914年7月18日、同航空機部門(Aeronautical Division)は、航空部(Aviation Section)に改編され、同航空部が気球・航空機・航空機用器具を含む米国陸軍の全航空機を運用し統括するという法律が米国議会で制定されました。

第一次世界大戦

1914年8月、第一次世界大戦がヨーロッパで勃発し、ヨーロッパ戦線における戦いは、航空機に対する重要性をさらに認識されることになりました。航空部隊の拡充も図られ、1918年5月24日に米国陸軍航空部(Air Service of the U.S. Army)に改編されました。しかしながら、第一次大戦中、陸軍内の組織に複数の航空隊が分散していることが、航空機運用活動の調整を困難にすることになり、さらに大きな部隊の創設の必要性にせまられることになります。その結果1926年、陸運航空部は米国陸軍航空隊(U.S. Army Air Corps)に改編されました。



写真3点：嘉手納基地所蔵



次ページへ続く

第二次世界大戦

第二次世界大戦になり、陸軍航空隊の航空機数・要員数が飛躍的に増加しました。1941年6月20日、米国陸軍航空隊(U.S. Army Air Corps)は、米国陸軍航空軍(U.S. Army Air Forces)に改編されました。そして1942年3月9日の大規模な米軍再編を受けて、陸軍航空軍は、地上部隊とは独立した作戦指揮権を持つようになりました。第二次世界大戦終結までには、陸軍航空軍は多くの航空部隊(air forces) 中隊(squadrons) 群(groups) 航空団(wings)から構成される主要な軍組織になりました。1947年に法律化された国家安全保障法に基づき、同年7月26日に陸軍航空軍は陸軍より独立し、米国空軍として創設されました。1947年9月18日、スチュアート・サイミントンが、初代空軍長官に就任し正式に空軍が始動することになりました。



嘉手納基地の第18航空団

現在、嘉手納基地に親部隊として駐留する第18航空団(18th Wing)の前身は、1927年1月21日に陸軍省がハワイ州で創設した臨時追撃群(provisional pursuit group)でした。太平洋戦争と朝鮮戦争に関与した後、1954年に第18戦闘爆撃航空団(18th Fighter-Bomber Wing)として嘉手納基地に移駐しました。その後ベトナム戦争と湾岸戦争にも関与し、1991年に現在の第18航空団へと再編されました。1947年9月18日の米国空軍創設を受け、第18航空団では空軍創立記念祝賀会(Air Force Ball)を、創設日に近い日にあたる週末に毎年開催しています。

1920's

CURRENT

UNGUIBUS ET ROSTRO

U.S. AIR FORCE BALL

空軍創立記念祝賀会の写真：広報局写真部撮影、その他記事の写真は全て、嘉手納基地所蔵

PACIFIC NEWS

2009年8月19日ハワイ州ヒツカム空軍基地で司令官交代式が執り行われ、太平洋空軍司令官としてゲイリー L. ノース大将が就任しました。ノース大将の指揮のもと、太平洋地域にある、第5空軍（在日横田基地）、第7空軍（在韓オーソン基地）、第11空軍（在アラスカ州エルメントーフ空軍基地）、第13空軍（在ハワイ州ヒツカム空軍基地）の運用が遂行されます。

(写真：米空軍)

(ノース大将は、2000年8月～2002年4月の間、嘉手納基地第18航空団司令官を務めてありました。)

18th Pursuit Group
18th Fighter Group
18th Fighter-Bomber Group
18th Tactical Fighter Wing
18th Wing

UCIって何？

第18航空団広報局

UNIT COMPLIANCE INSPECTION



(米空軍：ラキーシャ・クローリー二等軍曹撮影)

皆さんはUCI (Unit Compliance Inspection)という言葉を聞いたことがありますか。直訳すると「部隊順守監査」となりますが、日本でも行政や企業、団体における業務 会計監査などがあるように、空軍にも内部監査があります。このUCIでは、規則や運営指示書のもと手順を踏んで効率よく業務を行っているか各部隊別に監査されます。今回、8月上旬に太平洋空軍の監査官チーム（約140名）が嘉手納基地に一週間滞在し監査を行いました。この監査官チームは太平洋空軍の各基地に配属されている監査官らが一つのチームとなって構成され、嘉手納基地第18航空団配下の各部隊を監査しました。各監査官はそれぞれ担当する部隊で、空軍司令部が定めた太平洋空軍任務業務点検リストに記載されている共通順守項目と特別項目を用いて、必要な業務や運用がどのように行われているかを調査します。監査は5段階で Outstanding (優) Excellent (良) Satisfactory (可) Marginal (可下) Unsatisfactory (不可) という形で評価されます。手順に沿って業務を行っていれば Satisfactory、部隊特有のアイデアで効率よく任務を行い、運用や業務改善を図ることができれば Excellent や Outstandingなどの良い評価を得ることができます。今回、第18航空団の多くの部隊が良好な成績を収め、監査をパスしました。第18航空団副司令官のリシュー大佐も「監査官からは、第18航空団の多くの部隊で最善の方法で任務が実施され、多くの隊員が優秀隊員として認可されました」と隊員達を労いました。さらに「監査官からの意見を取り入れ、今後も第18航空団はこの評価に満足することなく、太平洋の要石としての可能な部隊としての定評を維持しながら努力していきます」とリシュー大佐は述べました。



(嘉手納基地広報局写真部：金城順子撮影)



(米空軍：ラキーシャ・クローリー二等軍曹撮影)



(嘉手納基地広報局写真部：金城順子撮影)



(米空軍：ラキーシャ・クローリー二等軍曹撮影)

